

令和元年度 北海道小学校校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：日高地区
 - 2 事例報告学校名：浦河町立浦河東部小学校
 - 3 報告者：校長 大石 恭義
 - 4 キーワード：地域の一員として生きる社会性の育成
-

1 はじめに

浦河東部小学校は、昭和 50 年に浦河東小学校、西舎小学校、杵臼小学校、上杵臼小学校が統合して誕生した。当時は天馬街道もなく、日高から十勝への道は日勝峠とえりも経由に限られていた。統合校だけに通学範囲は広く、海沿いの地域から山間部まで、職種も多岐にわたり、自治会や地域の活動も盛んな地域である。

昭和 59 年から隣の浦河第二中学校に在籍し、昨年度校長として本校に赴任した。当時の在校生が保護者になっている現在、時間の経過を実感しながらも日々の教育実践を行っている。キーワードは「地域の一員」。この言葉を頼りに実践報告を行いたい。

第 44 回国民体育大会（1989 年：はまなす国体）の馬術会場となった浦河町は、学校のすぐそばに馬術競技場を整備した。子どもたちは大会会場へ応援に行き、それを契機とした乗馬学習が継続している。これは全学年が取り組んでおり、保護者や地域の方々の協力無しには成立しない貴重な学習となっている。



浦河町は馬産地であり、日高幌別川流域には、軽種馬関連の産業が多い。JRA や BTC、生産牧場や馬匹会社、飼料会社、装蹄業など、他では望めないほど軽種馬関連の産業に恵まれている。乗馬学習は馬に対する基礎知識を学ぶとともに日高振興局が主催している「ひだか馬の絵」コンクールの素材も提供してくれている。子どもたちは馬に接することで、家の仕事について深く学ぶこともでき、直接馬とは関係のない子どもたちにも、日常的に地域について考える場面を提供してくれている。

2 育成すべき資質・能力（教科横断的な）

学校の教育目標に対応する資質・能力を整理し、本年度から教育課程に落とし込みながらの教育実践を行っている。

○学びを大切にする子

・言語能力 ・情報活用能力 ・多面的多角的な能力 ・分析力 ・問題発見 ・解決能力

○豊かな心を育てる子

・人間関係形成能力 ・リーダーシップ ・チームワーク ・責任感

○すすんで体をきたえる子

・健康・安全・食に関する能力・基礎体力

3 教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間

○教科

・言語能力 ・情報活用能力 ・分析・問題発見 ・解決能力 ・他者理解、責任感
・生き抜く力

○道徳

・道徳的判断力 ・自己理解、他者理解 ・生命尊重

○特別活動

・集団活動の意義 ・課題発見 ・解決能力 ・合意形成力、自己実現

○総合的な学習の時間

・探究的な学習を通しての知識・技能・課題設定・情報収集・整理・協働的な探究活動

4 地域の一員として

5年生の地域学習は、乗馬学習の他にも多岐にわたる。日高振興局や役場とのタイアップで行っている米づくり体験は、田植えから始まり脱穀・精米体験と半年にわたる活動になっている。又、宿泊学習では搾乳体験やカヌー体験など地域の協力のもと行っている。



自分たちの住んでいる地域や町の実態を知ること、地域の一員としての自覚が育ってくれることを期待している。

5 まとめ

地域の一員として生きることは、地域との連携を深め、地域の教育力を高めることになる。又、学校の教育活動への関心を高めることにも繋がる。しかしながら、教育課程において時数の確保は最大の懸案事項であり、どれだけのことができるかを精査することが大切である。幸い、来年度の時数集計をしたところ、今年度並みの教育活動を確保できることが分かった。学校はマネジメントサイクルを活用して、常に改善を図る姿勢を貫くことが大切である。前年踏襲ではなく、社会に生きる子どもの育成を図る上でも、地域の一員としての自覚を高める教育が求められている。